

土と基礎

平成22年1月号 第58巻第1号

地盤工学会誌

特集

地盤工学会創立60周年記念号

60th Anniversary 2009

●本号特集担当編集委員：岡田 進・川西 智浩（主査）

川合 洋二	清田 隆	久保田 啓二朗
小松 満	杉本 知史	新井 洋
大野 雅幸	川村 志麻	三枝 弘幸
鈴木 比呂子	高橋 真一	竹信 正寛
竹本 将	橋 伸也	玉手 聡
寺尾 直樹	時田 伸二	中澤 重一
長田 実也	船山 淳	吉田 輝

本号の編集にあたって

人生60年といえば還暦にあたり、十干十二支が一巡りした区切りという位置づけになります。地盤工学会も還暦を迎え、偉大な先達が歩んできた歴史を振り返るとともに、将来を担う若手技術者に対して進むべき道標を提示していくという意味を込めて、本号を地盤工学会創立60周年記念号として編集、刊行いたします。

本号では、この10年間の研究・技術の動向を取りまとめ、「地盤工学の最近10年の歩み」と題して、それぞれの分野で活躍されている第一線の技術者、研究者による総括報文を掲載しています。大きくは、ビッグプロジェクト、地盤災害、地盤調査、性能設計と耐震設計、施工技術と施工管理、維持管理、研究・開発という区分を設定し、19名の執筆者にわかりやすい筆致でご執筆いただいております。さらに、地盤工学の今後進むべき方向性を示すことを目的として「地盤工学の今後の新たな展開」を掲載しています。内容的には、環境に影響する物質循環、生物・生態系、循環型社会、防災技術の高度化、調査・設計技術、地盤情報とリモートセンシング、数値解析技術、アセットマネジメント、取り組むべき事業・支援活動という区分で、20名の執筆者による挑戦的な報文となっています。

次にこれを受ける形で、上記執筆者、および関連する研究者、技術者10名にお集まりいただいて開催しました「拡大する地盤工学—周辺分野への拡大—」と題した座談会の内容を掲載しております。議論の中で、研究発表会のセッションにおいて、圧密・せん断といった土質試験ものが減少し、数値解析、環境、防災といったより現実問題の解を求めるものが増加しつつあることが指摘され、社会的貢献という意味では評価すべきである一方で、基礎学問の占める重みが相対的に軽くなっていることへの懸念が表明されました。社会のニーズに応えるというミッションの重要性は言うまでもありませんが、過剰に適応することによって学術レベルの足腰が弱体化することの危険性については十分心しておかなければなりません。その意味でもオピニオンリーダーとして、地盤工学会の果たす役割は非常に大きいと確信しております。

編集委員一同、地盤工学会誌「地盤工学会創立60周年記念号」は、会員、読者の皆様方のご期待に沿う編集ができたと自負しております。今後とも、「地盤工学会誌」をご愛読いただくとともに、より品質の高い誌面作りにつながる皆様方からの忌憚のないご意見、ご批判を頂戴できれば幸いです。

三 村 衛（みむら まもる）

地盤工学会のホームページ URL <http://www.jiban.or.jp/>国際地盤工学会ホームページ <http://www.issmge.org/>

編集兼発行者：社団法人 地盤工学会